

農作物技術情報 第6号 畑作物

発行日 平成30年 8月 30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ 大豆 今年の開花期は平年並～やや早くなりましたが、干ばつの影響を受けた圃場では開花の遅れが見られました。全般に生育旺盛な圃場が多く、順調に子実が肥大しています。
現在、紫斑病とマメシンクイガの防除時期を迎えています。必ず薬剤散布を実施しましょう。
- ◆ 小麦 平成31年産小麦の栽培が始まります。収量確保のためには、越冬前に十分な生育量を確保することが必須です。生育量確保のために、排水対策を早め実施し、播種は無理せず土壌条件が整ってから適期に行いましょう。

大豆

1 生育概況

播種時期から生育初期は気温が高く、雨が少なかったため干ばつ傾向となり、出芽が遅れる影響が見られました。6月中旬は一転して低温となり、生育は緩慢となりましたが、6月下旬以降は天候も回復し、順調な生育となっています。開花期は平年並～2日程度早まりました。子実の肥大も順調ですが、台風や強い雨による倒伏が見られる圃場もあります。

2 病害虫の防除

マメシンクイガの防除適期は、県北部で8月第6半旬、県央・県南部で9月第1半旬となっています。また、紫斑病の防除適期は、若莢期（開花後20日頃）～子実肥大期（開花後40日頃）です。

薬剤は、莢によく付くように散布（生育が旺盛な場合は登録の範囲内で散布水量を増やす）しましょう。

3 手取り除草の実施

雑草は収穫時に汚損粒の原因となります。また、次作の発生源になりますので、大型雑草がある場合は種子をつける前に除草を行いましょう。

4 台風対策

台風の影響を受けやすい時期になります。土壌表面の排水を促進するため周囲溝や排水口等を

点検・補修し、土壌表面水を速やかに排水する等、「農作物技術情報 号外 台風対策」を参照の上、必要な対策を取りましょう。

小麦

1 排水対策

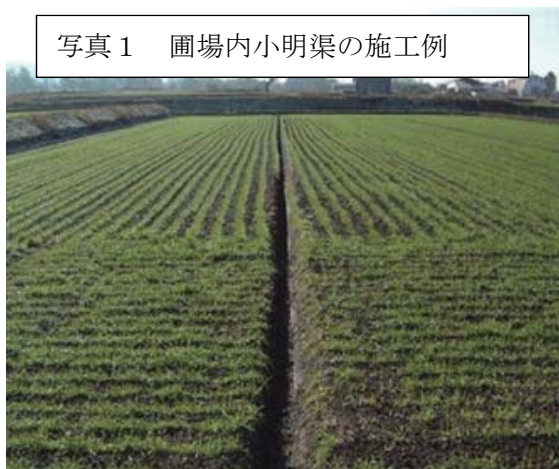
水稲の収穫作業と小麦の播種作業が競合しないよう、計画的に播種準備等を行いましょ

う。水稲の収穫後、小麦を作付けする圃場については、必要に応じてサブソイラによる弾丸暗渠の施工を行うとともに、地表水の速やかな排水を促すため、できるだけ早く額縁明渠を設置しましょう。額縁明渠は必ず排水路につなげて下さい（水尻は大きく掘り下げ、フリードレーン下部から排水させます）。

明渠のうち圃場内小明渠（写真1）は、播種後に施工が可能です。小麦を潰してしまいましたが、収量への影響はほとんどありません。

額縁明渠については、雑草が圃場内に侵入しないよう非選択性除草剤等を適切に用いる他、生育期間を通じてこまめに手入れを行いましょ

写真1 圃場内小明渠の施工例



2 土壌改良資材・堆肥散布

県内の水田転換畑は土壌の酸性化が進んでいる圃場が多く、低収の一因となっています。土壌診断を実施し、石灰資材の投入を行いましょう。なお、石灰資材投入の効果は施用後直ちに現れるものではなく、徐々に現れてきます。継続して石灰資材の投入を行うことが重要です。

また、水田転換畑における麦作は、一般に適期作業を重視する観点から、堆肥等の有機物施用が困難な面があります（特に水稲収穫後直後の麦作など）。しかし、堆肥等の有機物には土を膨軟にする、根張りをよくする、施肥の効果を高める、などの利点があり、継続して施用すると化学肥料のみを使用した圃場より収量・品質が向上します。堆肥を施用する場合は、雑草種子の混入していないものを使用しましょ

3 プラウ耕

水稲栽培では一般的にロータリ耕が行われますが、小麦栽培では深耕のためにプラウ耕が望ましいケースもあります。プラウ耕等を行う場合は、作土や耕盤の深さなどを調査し、不良な重粘土、やせた下層土が作土に混入することを避けるなど、事前に十分に検討してください。

なお、近年は碎土性に優れるアップカットロータリー（逆転耕）の利用も増えていきます（次項参照）。

4 砕土・整地

深耕を行った場合、大きな土塊を砕くため、砕土・整地作業を十分に行う必要があります。土塊が多いと播種精度が落ち、発芽が劣るなどの問題が発生しますので、水稻から転換後 1～2 年は砕土・整地をできるだけ丁寧に行いましょう。

特に砕土の良否は発芽に大きな影響を及ぼすため、一般的に地表部 10cm 層の砕土率（粒径 2cm 以下の土塊の割合）を 70%以上にする必要があるとされています。

砕土作業は、ハロー耕（ツースハロー、ドライブハロー、バーチカルハロー）やロータリ耕が効率よく行えますが、作業時の土壌水分によっては砕土性が劣る場合があります。砕土作業はプラウ耕の方向に対して直角か 45° の角度で行い、砕土後は圃場を均平にするため整地します。ロータリ耕のあとは土壌が水分を含みやすく、降雨があると乾きにくくなるため、播種直前に行うようにしましょう。

また、アップカットロータリを用いると、表層の砕土率が高く、下層は粗い二層構造の土壌を形成し、有機物の埋め込み性にも優れ、その後の播種作業も楽に行うことができます。

5 適期播種と播種量、播種方法

播種期が遅くなると、年内に確保できる莖数が少なく、穂数不足による減収や、根張りが少ないため凍上害にあうことが多くなります。また、播種晩限を過ぎるほど減収程度が大きくなるので、適期播種に努めましょう（表 1）。

小麦の分けつはイネほどではありませんが、一定の規則性をもって出現するとされています。多くの有効分けつを確保するために、越冬前の主茎の葉齢目標は 5.0 葉としましょう。

品種別の播種量・目標株立数は表 2 を基本とします。しかし播種が遅れた場合には、播種晩限から 1 週間遅れるごとに播種量を 1 割ずつ増やします。また、前作で萎縮病類が発生した圃場にやむをえず今年もナンブコムギを作付ける場合には、播種量は標準の 3 割増とし、100～120 株/m² の株立数を目指しましょう。

なお、砕土が粗い、土壌が湿っているなどの条件下では苗立ち率が低下します。このような条件下で播種する場合、播種量を増やすなどの対策を行います。

播種深度は通常 3～5cm 程度を目標とします。播種深度が深すぎると、出芽のバラツキや出芽率の低下が問題になり、浅すぎると、凍上害や鳥害、干ばつ害、除草剤の薬害などが生じやすくなります。砕土の状況、土壌の乾湿（排水の良否）、播種量、播種後の天気予報などを総合的に勘案して播種深度を設定してください。

表 1 県内の地帯別播種適期

地帯	播種期(月日)	
	早限	晩限
高標高地	9月15日	9月25日
県北部	9月15日	9月30日
県中部及び沿岸北部	9月20日	10月5日
県南部	9月25日	10月20日

表 2 品種別の播種量と目標株立数

品種名	播種量 (kg/10a)		目標株立数 (株/m ²)
	ドリル播	全面全層播	
ナンブコムギ	4～6	5～8	75～120
ネバリゴシ	6～8	8～10	130～170
ゆきちから	6～8	8～10	120～160
銀河のちから	6～8	8～10	125～170

●萎縮病対策

岩手県内全域で萎縮病類に汚染されている圃場が目立ちます。抵抗性の高い品種（ゆきちから等）の導入が有効です。ナンブコムギを作付けする場合は、発病圃場では安定した収量確保が難しいので、圃場の変更を検討しましょう。

萎縮病類は土壌伝染するので、農業機械、農機具および作業者の靴の土壌をよく洗い、汚染土壌を他の圃場に持ち込まないようにしましょう。

6 除草剤処理

除草剤をよく効かせるためには、①散布のタイミングを逃さないこと、②碎土・整地を丁寧に行うこと、③土質によって薬量が変わる場合があるので、ラベルをよく読むこと、などが重要です。

過湿条件では薬害が発生する危険があるので散布を避けましょう。また、輪作や周囲の草刈りなど耕種的な防除を併せて実施し、総合的な雑草防除を行いましょう。

前年にイタリアンライグラスが多発した圃場では、耕起前（イタリアンライグラス出芽後）に非選択性茎葉処理剤を散布し、その後耕起・播種する方法が有効です。耕起前の非選択性茎葉処理剤を散布してから播種後の土壌処理剤を散布するまで、できるだけ早く（10日以内）行うようにすると効果的です。

次号は9月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。